



第16回

さくらサミット
in 富岡

～桜でひとつになる瞬間～
未来への架け橋

期日：平成18年1月26日(木)・27日(金)

会場：富岡町文化交流センター「学びの森」ほか

主催／福島県富岡町



Contents

さくらサミット シンボルマーク・憲章	2
さくらサミット開催地・テーマ一覧	3
ごあいさつ	4
スケジュール	5
プロフィール	6
サミット加盟自治体紹介	8
サミット加盟自治体の合併状況	9
北海道静内町	10
宮城県柴田町	11
秋田県仙北市	12
茨城県日立市	13
群馬県前橋市	14
埼玉県北本市	15
埼玉県幸手市	16
東京都北区	17
新潟県新発田市	18
新潟県上越市	19
長野県高遠町	20
岐阜県本巣市	21
奈良県吉野町	22
鳥取県南部町	23
島根県益田市	24
島根県雲南市	25
長崎県大村市	26
熊本県水上村	27
宮崎県北郷町	28
福島県富岡町	29
第8回桜文大賞 「桜にまつわる思い出の手紙」入賞者	30
Mem o	31



さくらサミットシンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。



さくらサミット憲章 (平成元年9月22日制定)

Success

成功

第1条： 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach

接近

第2条： 「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword

言葉

第3条： まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity

調和

第4条： 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation

縁

第5条： 「桜」によって結ばれた縁を大切に、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement

合意

第6条： 共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。



さくらサミット開催地・テーマ一覧

	開催地	開催日	サミットテーマ
第1回	島根県木次町	昭和63年4月11日(月)	“桜”によるまちづくりと地域間交流
第2回	長野県高遠町	平成元年9月22日(金)	桜によるまちづくりと地域活性化
第3回	群馬県鬼石町	平成2年11月15日(木) 16日(金)	桜による地域開発
第4回	秋田県角館町	平成3年4月30日(火)	桜による産業づくりと文化
第5回	長崎県大村市	平成4年4月4日(土)	桜をめぐる観光と交通
第6回	奈良県吉野町	平成6年4月21日(木)	さくら文化の醸成
第7回	高知県佐川町	平成7年4月6日(木) 7日(金)	桜に憩う、桜を楽しむ
第8回	北海道静内町	平成8年5月9日(木) 10日(金)	さくらサミットからの桜情報の発信
第9回	新潟県上越市	平成9年4月13日(日)	桜のまちづくりと住民参加
第10回	東京都北区	平成10年4月5日(日)	さくらがつくる歴史と文化 —わがまちの桜—
第11回	宮城県北郷町	平成11年4月4日(日) 5日(月)	人にやさしく桜にやさしい環境づくり
第12回	埼玉県幸手市	平成12年4月9日(日) 10日(月)	幸せの手でつかむさくらの未来
第13回	茨城県日立市	平成13年4月7日(土)	桜と語るさくらの未来 ～元気さくらとネットワーク
第14回	岐阜県根尾村	平成14年5月18日(日)	さくらと歩む地域の未来
第15回	熊本県水上村	平成16年9月30日(木) 10月1日(金)	桜から桜まで ～ツーリズムと通年型観光～
第16回	福島県富岡町	平成18年1月26日(木) 27日(金)	～桜でひとつになる瞬間～ 未来への架け橋



富岡町長

遠藤 勝也 (えんどう・かつや)



「第 16 回さくらサミット in 富岡」の開催にあたり、全国さくらサミット加盟自治体 20 市区町村の中から、何かとお忙しい時期にもかかわらず、北は北海道静内町、また九州からも熊本県水上村、長崎県大村市など、遠方からも多数参加いただき心から感謝申し上げます。

さらには、多くの関係各位やご来賓のご臨席を賜り、サミットを開催できることは富岡町として大変名誉のことと存じます。

「さくらサミット」は「さくら」をキーワードにしたまちづくりを共通テーマに、連携して発展することを目的に開催されております。

わが町の桜については、今から 100 年ほど前、一人の開拓者が原野を切り開き農場経営をしたときに、寂しい環境を癒すために、浜街道から入植地までの道に桜を植えたものが最初と聞いております。その後、桜を愛する人たちが受け継ぎ、守り育て、今では、2.5km の見事な桜並木となっております。今、私たちは、この素晴らしい環境財産を発展させながら後世に引継ぐべく努力しているところであります。

わが町合併 50 周年記念事業の一つとして、第 16 回さくらサミットをここ、「学びの森」で開催できることは、町民全体の喜びであります。

熊本県水上村で開かれました第 15 回サミットにおける次期開催地としての決意挨拶後、諸準備に取りかかってまいりましたが、あっという間の開催となってしまいました。何かと不手際な点などありますが、サミットの成功に向け精一杯努力いたしますので、皆様のご意見をお聞かせいただき、より良い「さくらサミット」にしたいと考えております。

最後に、ここにお集まりいただきました、みなさまのご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、私の挨拶といたします。



スケジュール

1月26日(木)

- 13:10～ さくらサミット 【会場】「学びの森」大ホール
- 開 会
 - サミット全体会議
- テーマ「～桜でひとつになる瞬間～未来への架け橋」
コーディネーター 篠田伸夫氏
- 共同宣言採択
 - 調印式
 - 次期開催地発表 サミット旗次期開催地へ伝達
 - 閉 会
- 16:00～ 第8回桜の親善大使任命式
- 第8回桜文大賞「桜にまつわる思い出の手紙」授賞式
 - 受賞作品朗読
- 特別選考委員 小室等氏
- 17:00～ さくらサミット記念講演会
- 講師 大石邦子氏(エッセイスト)
演題 「桜とわたし」
- 18:00～ サミット加盟自治体物産品 プレゼント
- 18:30～ 交流会 【会場】リフレ富岡



1月27日(金)

- 9:00～ 見学会①
- JR夜ノ森駅・夜の森公園桜通り・
富岡第二中学校脇桜並木・宝泉寺
- 9:30～ 記念植樹 【会場】富岡町総合スポーツセンター
- 10:00～ 見学会②
- 愛成園(桜染め)・エネルギー館
- 11:30 解散

プロフィール

コーディネーター

篠田伸夫(しのだ・のぶお)

- ・東京海上日動火災保険(株)顧問
- ・(財)消防試験研究センター顧問
- ・前全国町村議会議長会事務総長



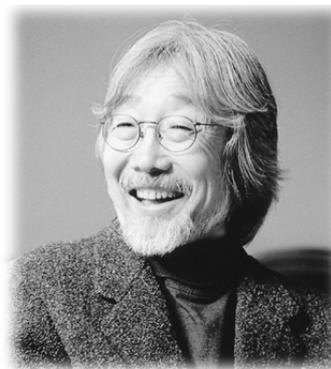
1943年鳥取県生まれ。67年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、87年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、行政部長、岐阜県副知事、消防庁次長などを歴任。2000年4月より全国町村議会議長会事務総長を務め、05年4月より現職。



桜文大賞 特別選考委員

音楽家

小室 等(こむろ・ひろし)



1943年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻科卒業。68年、フォークグループ「六文銭」を結成。72年、第2回世界歌謡祭にて、「出発の朝」(上條恒彦と六文銭)でグランプリを獲得。

現在は、コンサート活動(年間70~80本)を中心に、テレビドラマ、ドキュメンタリー映画、芝居、ミュージカルの音楽を担当。また、エッセイの執筆など、幅広いジャンルで活躍を続けている。

記念講演会 講師

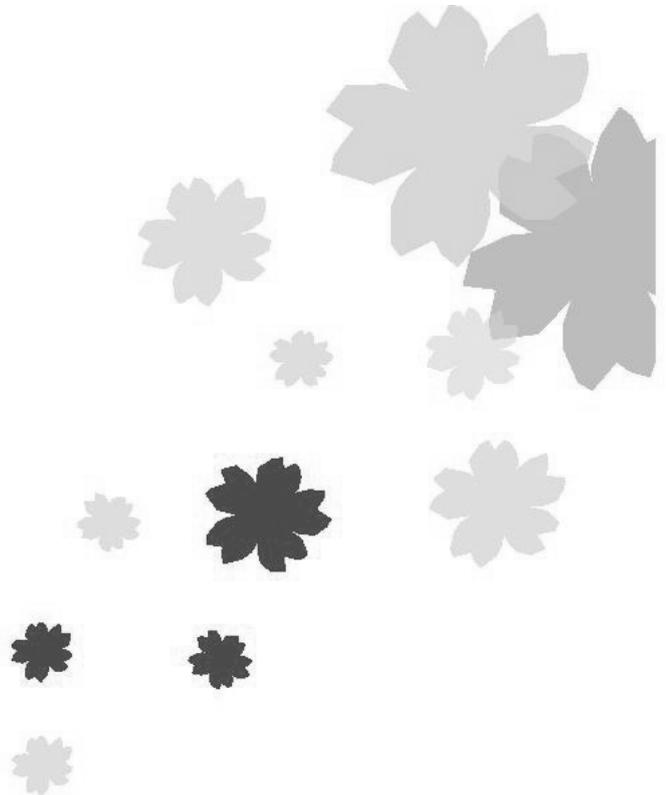
エッセイスト

大石邦子(おおいし・くにこ)



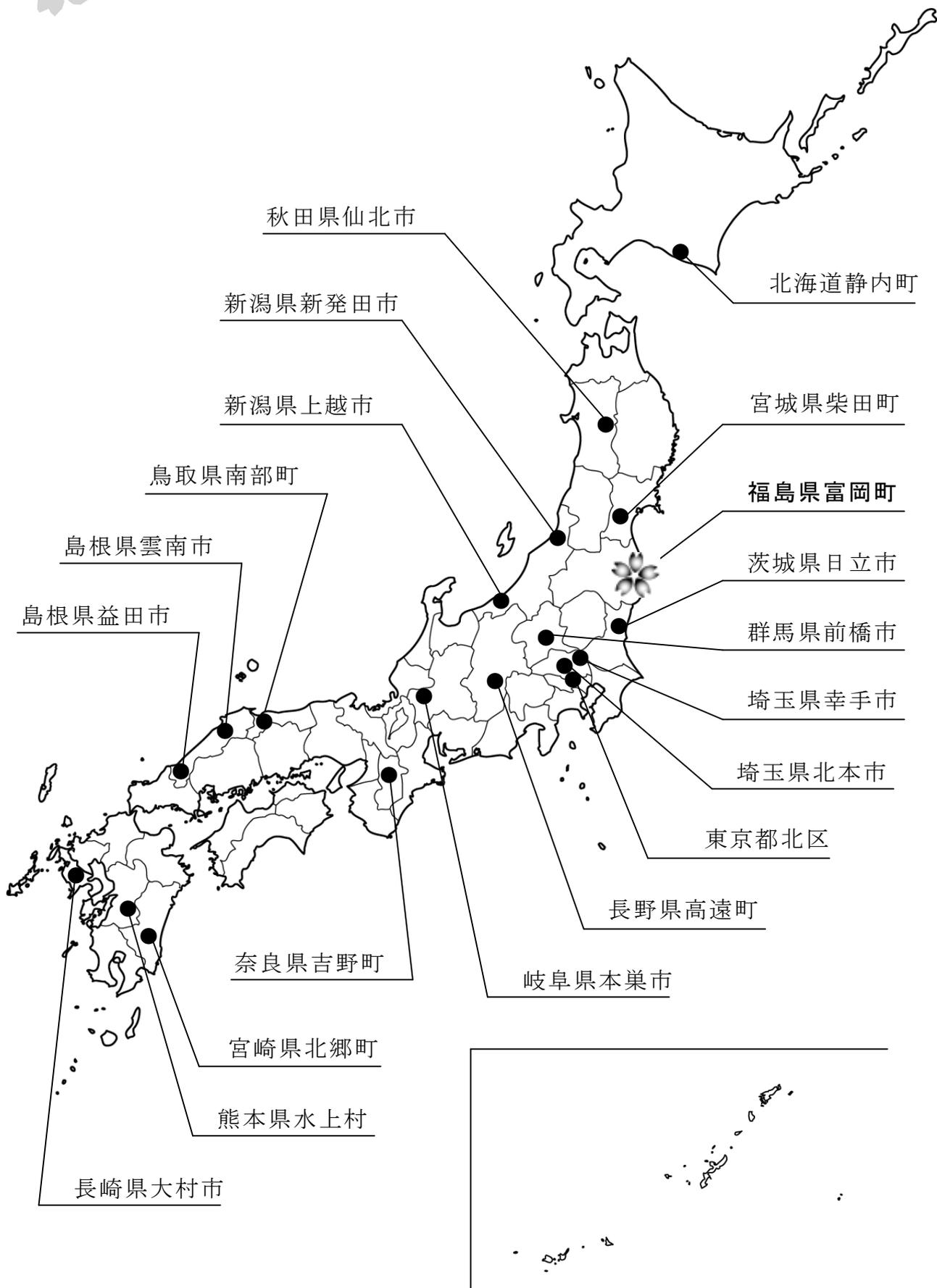
福島県会津美里町（旧・会津本郷町）生まれ。1961年、福島県立会津女子高等学校卒業。21歳のとき、交通事故に遭い半身麻痺となる。

78年に第2回福島民報出版文化賞受賞、81年には「この愛なくば」で文化庁芸術祭大賞・テレビドラマ原作賞を受賞。83年に、福島県文学賞受賞、皇居新年「歌会始の儀」に陪聴者として招待を受けるなど、車いすの生活を続けながら、エッセイストとして活躍を続ける。最新刊「人は生きるために生まれてきたのだから」。





サミット加盟自治体紹介



サミット加盟自治体の合併状況

No.	自治体名	新自治体名	合併期日	旧自治体名	形式
1	北海道 静内町	新ひだか町	18年3月31日	静内町	新設
2	宮城県 柴田町	—	—	—	—
3	秋田県 仙北市	仙北市	17年9月20日	角館町	新設
4	福島県 富岡町	—	—	—	—
5	茨城県 日立市	日立市	16年11月1日	日立市	編入
6	群馬県 前橋市	前橋市	16年12月5日	宮城村	編入
7	埼玉県 北本市	—	—	—	—
8	埼玉県 幸手市	—	—	—	—
9	東京都 北区	—	—	—	—
10	新潟県 新発田市	新発田市	17年5月1日	加治川村	編入
11	新潟県 上越市	上越市	17年1月1日	上越市	編入
12	長野県 高遠町	伊那市	18年3月31日	高遠町	新設
13	岐阜県 本巣市	本巣市	16年2月1日	根尾村	新設
14	奈良県 吉野町	—	—	—	—
15	鳥取県 南部町	南部町	16年10月1日	西伯町	新設
16	島根県 益田市	益田市	16年11月1日	美都町	編入
17	島根県 雲南市	雲南市	16年11月1日	木次町	新設
18	長崎県 大村市	—	—	—	—
19	熊本県 水上村	—	—	—	—
20	宮崎県 北郷町	—	—	—	—

北海道静内町

まちの概要

雄大なる日高山脈と太平洋に囲まれた「静内町」は、競走馬のふるさととして有名な日高地方の産業、経済、教育、文化の中核都市。

農林漁業の基幹産業をはじめ商工業、各種産業が発達した人口 22,600 人、10,500 世帯の緑豊かなまち。

さくらの概要

直線約 7km にもおよぶ“日本一の桜並木”として知られる二十間道路桜並木は、明治 36 年、当地を訪れる皇族等を迎えるために幅二十間（約 36m）、延長 2 里（8km）という雄大な行啓道路として誕生し、大正 5 年から 7 年までの 3 年の歳月を費やし、当時の御料牧場職員の手により近隣の山々から、沿道を埋め尽くす桜が植栽された。

桜は、ほとんどがエゾヤマザクラであり、風雪に耐え、今も北の大地に遅い春の訪れを告げる。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

二十間道路桜並木は、当町のシンボルとして多くの人に愛されているが、そのほとんどが高齢樹であるため樹勢の衰えが随所に見受けられ、樹勢回復と延命対策が急務であったことから、調査・治療を徹底的に行い、現在も継続して実施をしている。

今後については、「さくら基金」を制定していることから、多くの人による善意とボランティアによる保護・保存を推進し、また、「北海道遺産」としての認定を受けていることから、後世に残すべき貴重な財産として守り続けていかなければならない。

宮城県柴田町

まちの概要

仙台駅から南に 25km に位置し、町の総面積は 53.98 k m²、人口は 39,496 人の県南最大規模の町。

柴田町は、藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、奥州街道の 64 番目の宿場町として栄えた「槻木」が昭和 31 年に合併して誕生した町である。

さくらの概要

柴田町には、日本のさくら名所 100 選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られている。毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から 20 万人を超す花見客で賑わう。

「船岡城址公園」では、1,000 本を超す染井吉野桜が咲き誇り、満開時には全山が桜色に染まる。

「白石川堤一目千本桜」は、町から大河原町に至る総延長 8km に約 900 本の染井吉野桜が植えられている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

およそ 100 年の歴史をもつ桜の景観を町の誇りとする、「柴田さくらの会」を始めとする町民各位のご尽力により、町内のいたるところに桜の植栽事業を展開してきた。このことにより数的には充足された感がある。

今後は、この景観を後世に継承していく施策の展開が喫緊の課題であると考えられる。例えば、桜の古木をどうするのか、植え替えするとなれば、ソメイヨシノに拘るべきか、町民の各種希望を取り入れて桜を植栽したら良いのか等の意見を踏まえ、町民と協働により早期に実施したいと考えている。

秋田県仙北市

まちの概要

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している。平成 17 年 9 月 20 日に田沢湖町、角館町、西木村の旧 3 町村が合併し形成された。仙北市のほぼ中央に水深が日本一の田沢湖があり南に秋田こまちの産地仙北平野へと開けている。地域の約 8 割が森林地帯で、玉川温泉や乳頭温泉郷と温泉にも恵まれている。角館町地区には、元和 6 (1620) 年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。山桜の樹皮を原材料とした伝統工芸樺細工でも知られている。

さくらの概要

仙北市角館町の国指定 2 件の桜は、雪に閉じ込められた長い冬の終わりの証として多くの人々に春の訪れを見せてくれる。

武家屋敷一帯のシダレザクラは藩政時代以来の歴史的記念物であり、今ではこの一帯の不可欠な景観構成要素となっており、花の時期はもちろんだが、四季を通じ歴史的風趣を添えている。

一方、まちの中央部を流れる檜木内川堤のソメイヨシノの桜並木は、昭和 9 年今上陸下の誕生を祝い記念植樹したものである。樹齢約 70 年 2km の桜並木には、老木の桜が今も壮観な花のトンネルを見せている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

花を良い状態で見させていただくには、施肥や枯枝、病気枝の除去等、年間を通して管理を徹底することが重要である。また、生育環境の劣悪な場所では生育環境改善が必要である。

武家屋敷内のシダレザクラは植栽地での生活環境の改善工事、観光客の増加などで生育環境が大きく変化してきている。このため、平成 11~12 年度緊急調査事業、翌 13 年度は保存管理計画を策定し、14 年度から 6 年計画で土壌改良、保護柵設置等 6 種類のメニューを生育場所にに応じて組み合わせ、生育環境改善事業を実施している。

檜木内川堤の桜並木は平成 10~11 年度保存管理計画を策定し、この保存管理計画に基づき翌 12~15 年度まで 4 年継続で樹勢回復のための土壌改良や根系誘導などの生育環境改善工事を実施した。この工事施工後徐々に若い枝が伸長し、桜も自ら蘇ろうとしているようである。一般的に寿命が 60 年とされるソメイヨシノを植え替えしないで花を見ながら自根により更新できるか、ソメイヨシノの老木を有する全国の植栽地から注目されている。

茨城県日立市

まちの概要

太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、日立鉱山から発展した、わが国を代表する産業都市である。

また、平成 16 年に合併した旧十王町の伊師浜国民休養地は、全国で唯一の海鵜の捕獲地として知られ、海鵜は長良川をはじめ全国各地の鵜飼に利用されている。

特色としては、市民運動が盛んで福祉事業や生涯学習、地域コミュニティからさくらのまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動し、「市民との協働による新世紀の基盤づくり」を基本計画の目標としている。

さくらの概要

大正初め、銅の精錬に伴い発生した煙害で荒廃した山々に、日立鉱山が「大島桜」など煙害に強い苗木を大量に植林したのが始まりとされる。

一方、市は昭和 20 年の戦災により焦土と化した市街地の復興と市民の安らぎの場を作るため、昭和 20 年代後半「平和通り」や「かみね公園」に「ソメイヨシノ」などの桜を数多く植栽した。この桜は平成 2 年「日本のさくら名所 100 選」に選ばれ、桜の季節には 50 万人近い観光客を集めている。

また、十王ダムを見下ろす山の上にある十王パノラマ公園にも 35 種約 400 本の桜が植えられており、平和通り、かみね公園と併せて日立さくらまつりの会場となっている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

樹勢の衰えた平和通りのさくら（ソメイヨシノ）の植え替えの検討や、市内小中学校等のさくらテングス病枝の除去等既存のさくらの保護育成にも積極的に取り組んでいる。

また、日立のさくらのルーツであり産業遺産ともいえるオオシマザクラの苗木植栽事業を市民参加により実施し、毎年春には「日立のさくらを知る講座」を開設し、日立のさくらの歴史について啓蒙に努めるなど、市民と一体となってさくらのまちづくりに取り組んでいる。



群馬県前橋市

まちの概要

県のほぼ中央にある赤城山の麓に広がる前橋市は、清らかな水をたたえた利根川や広瀬川が市内を流れる、緑豊かで自然に恵まれた都市である。

群馬県の県都として発展し続けてきた本市は、平成 16 年 12 月 5 日に隣接する 1 町 2 村と合併し、人口 32 万人の新しい都市に生まれ変わった。

萩原朔太郎をはじめ多くの詩人を生み出したことから「近代詩のふるさと」ともいわれ、「水と緑と詩^{うた}のまち」をキャッチフレーズにしている。

さくらの概要

赤城南面千本桜は（財）日本さくらの会「日本のさくら名所 100 選」にも選ばれた名所であり、毎年 4 月に開催される桜祭りでは約 2km に渡ってできる桜のトンネルを見に多くの観光客が訪れている。

また、新たに開設される「みやぎ千本桜の森」についても、千本桜並木に隣接し標高が高いところに計画されていることから、目の桜色に染まる大地と関東平野を重ね合わせ楽しめることができる雄大な名所となるよう事業を進めている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

千本桜隣接地に現在整備中の「みやぎ千本桜の森」が平成 18 年度完成予定で進んでおり、完成後には千本桜並木と相まってより多くの人たちに親しまれる新たな名所となるよう県内外に情報の発信を行っていきたいと考えている。

また、千本桜並木は植えてから約 50 年を経過し、樹勢も衰えていることなどから平成 16 年に地域の人たちを中心に「桜守の会」を発足し、新旧の桜が共存した新たな千本桜を創りあげ、そして地域の手により代々受け継がれるような誇りの持てる名所となるようにしていきたいと考えている。



埼玉県北本市

まちの概要

北本市は、東京から 40～45 k m²にあり武蔵野の面影を残す雑木林が点在する緑豊かな住宅都市である。昭和 46 年 11 月 3 日に埼玉県内 33 番目の市として誕生し、まちづくりの方針に「ずっと住み続けたいまち、きたもと」を掲げ、経済・教育の活性化、便利で公正な行政サービスの提供、子育て支援の充実、自然環境の保全などの取組みを進めている。

さくらの概要

北本市の桜には、日本五大桜の一つで、大正 11 年に国の天然記念物に指定された樹齢約 800 年の「石戸蒲ザクラ」（他に福島県三春の滝ザクラ、山梨県武川村の山高神代桜、静岡県富士見市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県本巣市の根尾谷淡墨桜）、市の天然記念物として指定され、樹齢約 200 年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など桜の名所が数多くあり市民に親しまれている。平成 7 年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた 11 種 182 本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れている。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健在に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

市のイメージアップを図るため、市の木である桜を「観せる」「伝える」「創る」という 3 つの展開方針に沿って事業を推進する。また、石戸蒲ザクラは推定樹齢 800 年という高樹齢で樹勢が低下しており、樹勢維持のための施肥・外科的処置を行うとともに、市民配布したクローン技術を用いた後継樹の育成管理を推し進めていく。

埼玉県幸手市

まちの概要

幸手市は、埼玉県の北東部に位置し、東京まで約 1 時間、人口 54,930 人の緑豊かな住宅都市として発展している。江戸時代は日光街道の宿場町として栄えた。郊外には豊かな田園地帯が広がり、米作が多く行われている。今後予定される首都圏中央自動車連絡道のインターチェンジ建設に伴い、新たな産業基盤の整備が期待されている。

さくらの概要

市内北部の権現堂堤には約 1,000 本の桜が 1km に渡って連なり、周辺に広がる菜の花畑とあわせて、春には多くの花見客で賑わっている。最近では都心方面からのバスツアーが増加している。この桜を保全するために平成 9・10 年に実態調査を行い、平成 12 年度から毎年、桜保護工事を行っている。また、地域住民により組織された NPO 法人幸手権現堂桜堤保存会による保全活動も活発に行われている。



権現堂堤の桜と菜の花

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

NPO 法人幸手権現堂桜堤保存会が主体となり、権現堂堤の環境整備を行っているほか、アジサイやヒガンバナなどを活かして、年間を通じた集客に努めている。これまで「さくら 10 万本運動」として桜の植栽や配布に力を入れてきたが、平成 17 年度から「ふるさとの桜を活かす運動」として、桜の維持管理に重点を置き、桜の保護や手入れを主体に事業を進めている。



権現堂堤のアジサイ

東京都北区

まちの概要

東京の北の玄関口に位置し、平成10年「第10回さくらサミット in 北区」が開催され、全国にさくら文化が発信された人口約33万人のまち。

桜の名所地「飛鳥山公園」に同年全国初の公・民営の3つの博物館が同時に開館したほか、東京初の防災センターや、旧古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。

さくらの概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園は、徳川八代将軍吉宗の肝いりで1,270本もの「さくら」が植樹され、江戸時代の庶民の花見場所として全国的に知られた。歌川（安藤）広重や葛飾北斎のように、世界的な評価を受けている絵師が、飛鳥山の「さくら」を多数、錦絵に残している。

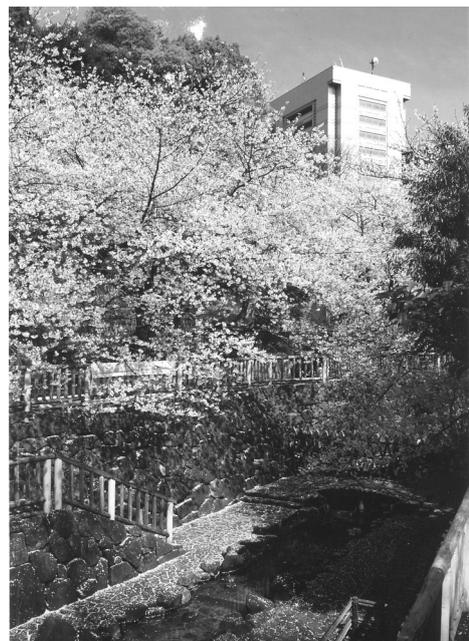
戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価され、春には多くの花見客が訪れている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

北区のさくらの名所「飛鳥山公園」は、交通の便が良いこともあって、都内はもとより近県からも多くの花見客が集まり、花見時期は大変賑わう。

また、区では「花*みどり」・やすらぎ戦略を掲げ、区民との協働により区民主体の身近な公園づくりを進めるとともに、国公有地などを活用して区民がうるおいとやすらぎを感じ、憩い散策を楽しむことのできる季節感あふれる公園づくりに努め、魅力的な都市空間を整備し、花とみどりのまちづくりを推進している。

平成17年10月には「環境共生都市」と「健康やかに安心してくらするまち北区」を区民とともに実現し、将来にわたって健康と環境への願いを明らかにするために「元気環境共生都市宣言」を行った。



新潟県新発田市

まちの概要

新発田市は、県都新潟市に隣接する阿賀北の中核都市で、北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東には磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園がある。

城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「愛せるまち、誇れるまち、ふるさと新発田の創造」を目指し、これからも発展していきたい。

さくらの概要

櫛形山脈の主稜のひとつ大峰山は、ヤマザクラの地として名高く、昭和 9 年には「椽平桜樹林」として天然記念物に指定された。この桜は何万年も前に自生したものが老木となり枯れ、その根元から若木が出、それを繰り返すことででき上がった桜樹の原始林で、長い年月の間に幾百種の変種が生まれ、現在 40 余種・約千本が群生、4 月下旬から 5 月中旬に満開の姿を見せてくれる。また、櫛形山麓の 5.2ha の敷地に 100 種、約 300 本を植栽した「桜公園」を整備し、春には多くの方々が公園を訪れる。

そして、加治川堤には、長堤十里、40km に約 600 本が植栽され当時は日本一といわれた堤桜があった。この堤桜は、昭和 41 年・42 年に連続で発生し大きな被害をもたらした羽越水害で、堤防決壊の一要因ということで河川改修に伴い全てが伐採された。その後、ぜひあの当時の姿を復元したいという声があがり、平成元年に旧建設省の「桜堤モデル事業」に認定、平成 4 年度から植栽を始め、最初のころに植えた桜樹は今、かなり大きく育ってきている。



新潟県上越市

まちの概要

新潟県の南西部に位置する上越市は、その昔、越後国府が置かれ、古くから交通の要衝として栄えた長い歴史に育まれたまちである。

平成 17 年 1 月 1 日に周辺 13 町村と合併し、雄大な日本海と豊穡の大地、四季折々の美しい山々に抱かれた豊かな自然と歴史文化あふれる都市として生まれ変わった。

さくらの概要

ソメイヨシノを中心に約 4,000 本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会を開催。ボンボリの明かりに照らし出され、お堀の水面に映る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。

その他市内には、公園や湖畔など桜の名所が数多くあり、4 月前半から後半まで、各地で桜を楽しむことができる。



高田公園の夜桜

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

毎年 4 月上旬～中旬に高田公園を会場に開催される「高田城百万人観桜会」は、上越市の観光の目玉として一番の集客を誇っている。

特に夜のライトアップは幻想的な雰囲気醸し出し、多くの人を魅了していることから、夜桜を中心に今後も積極的な集客を図っていくこととしている。

長野県高遠町

まちの概要

合併により誕生する新「伊那市」は東に南アルプス、西に中央アルプスをのぞむ自然と産業に恵まれた長野県南部の中核市の一つである。高遠町は新「伊那市」の歴史・文化・観光の中核として、桜の時期を中心に年間 79 万人の観光客が訪れる歴史と緑豊かな城下町である。江戸時代には後に会津藩祖となる名君保科正之をはじめ、内藤氏等により高遠藩 3 万 3 千石の城下町として発展してきた。

さくらの概要

高遠は南北朝時代の高遠氏に始まり江戸時代の内藤氏まで南信濃の中心地として栄えてきた。その後明治の廃藩置県により城が取り壊され辺りは一時荒廃したが、



明治 8 年に有志の手で近くにあった桜の植樹が行われ高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの仲間としては大木となり花も赤みが強い特種な桜で、約 1,500 本に及ぶ樹林は県の天然記念物に指定されている。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

高遠では昭和 54 年桜憲章を制定、高遠城址公園を中心に町内各所に点在するタカトオコヒガンザクラの貴重な財産を後世に継承するため保護育成に努めている。桜憲章では桜を町民全体の貴重な財産とし、すべての町民による保護、桜の保護・育成鑑賞に対する教育の重視、桜の病虫害・天災からの保護及び増殖計画による純粋な種苗の育成、苗木の適正な管理を定めている。そして桜守の手により保護育成が行われている。

岐阜県本巣市

まちの概要

平成 16 年 2 月 1 日に本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の 3 町 1 村が合併して人口約 35,000 人の本巣市となった。

県都の岐阜市の北西に位置し、北は福井県と境を接する山間部から南は濃尾平野の中ほどの平坦部にいたる。南北に細長くて、北に高く南に低い地形となっている。

国指定天然記念物の淡墨桜がある旧根尾村を引継ぎさくらサミットに参加。

さくらの概要

樹齢 1,500 余年の淡墨桜は、継体天皇のお手植えの桜と伝えられる。

桜では日本一の巨木といわれ、日本のさくら名所 100 選にも選ばれた。

国指定の天然記念物、蕾のときは薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには淡い墨色をおびてくる。

過去、幾度も枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代氏ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、毎年 4 月上旬には全国から 20 万人もの観光客が訪れる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

現在、市内各所に桜の木が植えられているが、その多くはソメイヨシノであり、比較的寿命が短く病気にも弱いため管理に経費と労力をかけている。

合併を機に、旧根尾村にある寿命が長く病気にも強い淡墨桜（エドヒガン）の苗木を公共施設を中心に市内の多くの場所に植栽することを推進し、その名の普及を図りたい。



奈良県吉野町

まちの概要

吉野町は紀伊半島のほぼ中央に位置し、吉野杉や桧の美林に囲まれ、清流吉野川が町の中央を東西に流れる風光明媚な町である。一目千本と称される吉野山の桜を中心とした観光産業と、木材関連産業を基盤として発展してきた。南朝の哀史の里、山伏の宗教「修験道」の霊場としても名高く、数多くの人々が訪れている。

さくらの概要

吉野の桜は、4 月上旬から中旬にかけてシロヤマザクラを中心に約 3 万本が豪華絢爛に咲きみだれる。平安時代の古今和歌集にも詠われている吉野の桜は 1000 年の歴史があり、修験道の本尊蔵王権現の聖地として信者による献木が古くから行われ、大切に保護されてきた。



平成 16 年 7 月、吉野山が「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核の一つとしてユネスコの世界遺産に登録されたことにより今後ますます注目を浴びることとなるであろう。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

吉野山の桜は、信仰の桜として植え続けられ保護されてきた。現在は、財団法人吉野山保勝会の皆さんや地元住民の方々の奉仕によって維持されている。

近年、全国的に桜樹の樹勢の衰えが目立ち心配されているが、吉野山の桜も例外ではない。平成 6 年に吉野山桜活性化調査を実施し、それ以降補植や施肥、下草刈などの管理を行ってきたが、今後もこの地道な作業を積み重ねていく必要がある。

地元先人たちのたゆまぬ努力によって、今日まで護られてきた吉野山の桜を護っていくために、地元はもとより吉野の桜を愛でる多くの人たちにも桜の保全に関心をもっていただき、吉野山の桜の活性化が他の桜の名所の桜樹回復のよき先例となるよう地道な努力を重ねていかなければならないと考えている。

鳥取県南部町

まちの概要

鳥取県西部の島根県境に位置し、東西 12km、南北 17km、総面積 114.03 k m²を有する人口 12,210 人の町。特産の富有柿、梨、いちじくの生産で有名。人権・福祉の町づくりを進めている。

さくらの概要

町の中心部を流れる法勝寺川。その川沿いの土手には約 4km にわたって続くさくら並木がある。

開花時期は年により若干の違いはあるものの、4 月第 1 週から第 2 週にかけて満開になる。この時期になるとその季節のはじまりを示すようにぼんぼりが灯り、多くの花見客で賑わう。

このさくらは今からおよそ 50 年ほど前に、町民の手で植えられ、今も、町民が参加するボランティア団体により管理していただいております、まさに町民のさくらであるといえる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

町の貴重な財産である桜を核として観光の町づくりを進めていきたい。



島根県益田市

まちの概要

益田市美都町は、島根県の西部、中国山地の嶺線に近い中山間地帯にあり、総面積 132.64 k m²の広さを持ち、全面積の 87%が林野で占められている。

人口は 2,700 人。美都温泉、みと自然の森、ひだまりパークみと、秦佐八郎記念館、双川峡、四つ山、金谷城山桜などの観光施設がある。

さくらの概要

金谷城山桜（かねだにじょうざんざくら）

種 類：エドヒガン

樹 齢：570 年

樹 高：15m

幹周り：6.67m

由 来：入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に、城の出丸部分にあたる所に植えたといわれている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

本町は、ふるさと創生事業で掘り当てたみと温泉を核として、双川峡、秦記念館、スポーツ交流施設「ひだまりパークみと」などの施設を連携して町への入り込み客の増加を図っている。自然の豊かな本町ならではの施設としてバンガロー等がある「みと自然の森」は、心を癒してくれる施設として町外からの利用が増加している。

島根県雲南市

まちの概要

雲南市は大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の 6 町村が合併して平成 16 年 11 月 1 日に誕生した新しい市。雲南市は、都市地域と異なる固有の自然や歴史文化、産業等を形成し、多彩な地域の魅力ある資源を保有している。「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をキーワードにこうした地域資源を最大限活用し新たなまちづくりに踏み出したところである。

さくらの概要

平成 2 年に（財）日本さくらの会より、日本さくら名所 100 選に選定された「斐伊川堤防桜並木」はヤマタノオロチ退治の舞台となった斐伊川の清流に沿って約 2km わたる桜トンネルとして、中国地方随一の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終わりごろから町民の手によって植えられた。現存する桜は、昭和の初めに土手の両側に植えられ、多年町民が愛情を注ぎ町のシンボルとなっている。

現在約 1,500 本の桜が斐伊川堤防、木次公園など町の中心部にあり、シーズンには多くの観光客で賑わう。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

雲南市となり、構成する町においても緑の桜「御衣黄」を振興する三刀屋町を始め、多くの桜名所もあり市民の関心も高いものがある。これまで木次町で行っていた住民参加組織である木次さくらの会を発展させ雲南市さくらの会を昨年 7 月に結成。会員募集をはじめ桜管理研修会等を開催している。今後も桜のまちづくり事業を雲南市全域で展開していく考えであり、市民共通の誇りとなるような展開を行いたいと考えている。

長崎県大村市

まちの概要

長崎県の中央部に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む、東西 12km、南北 16km、総面積 126.33k m²を有する人口 90,000 人（H17.11.16 現在）の市。日本初のキリシタン大名大村純忠や天正遣欧少年使節などキリシタンの歴史資産を活用し、観光立市を目指した取り組みを推進している。

さくらの概要

大村市には、「さくら名所 100 選」に選ばれた大村公園をはじめ、市内の公園、学校等の公共施設を中心にオオムラザクラ、クシマザクラ、ソメイヨシノなど 10,000 本程度の桜が植えられている。中でも、国指定天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の 2 段咲きで花卉の総数が 60～200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われています。大村公園では、桜、花菖蒲など、3 月 25 日から 6 月 20 日まで花まつりで賑わう。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

大村公園は、わが国近代公園の先駆者として知られる長岡安平が玖島城跡に植えたことに始まり、桜の名所として有名になった。「さくら名所 100 選」に選ばれたのを契機に「さくらの街おおむら」を広くアピールするための植栽事業を展開し、平成 13 年度に「さくらの街推進委員会」を設置して、より一層のさくらの街の推進に向けての取り組みを行っている。今後も市民と行政が一体となったさくらの街づくりを推進していく。



熊本県水上村

まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11 k m²のうち、約 92% が森林に囲まれた人口約 2,600 人の村。日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

さくらの概要

昭和 35 年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約 14km に、修景事業として一万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在、住民総参加の桜の下草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人ひとりの手で育てられている。また、「桜図鑑園」には約 80 種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

桜は水上村の観光の大きな核となっているのは間違いない。しかし、植栽されてから 40 年以上が経過し、木によっては樹勢の衰えも目立ち始めてきた。また、一昨年からの相次ぐ台風により倒伏・枝折れ等の被害を受けた木も多く、今後は、現存する木の樹勢回復を図るとともに、桜の世代交代を見据えた植栽、間伐、枝の手入れ等を行っていく予定である。

宮崎県北郷町

まちの概要

宮崎県の南部に位置し、総面積 178.49 k m² の 400 年の歴史を誇る飫肥杉の町で面積の 88% が山林で占められている。人口 5,195 人、2,042 世帯の町。

さくらの概要

「チェリータウン」を目指し、昭和 56 年から桜の植樹活動を展開している。植栽は自治体公民館や各種民主団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約 18,000 本程度の植栽を完了している。そのうち町内の花立公園には 10,000 本の桜が植栽されており、多くの観光客が訪れる。また、12 月には山桜のほか町内の桜愛好家が開発した「日南寒咲 1 号」が早咲で開花する。



さくらについての考え方、今後の施策、整備について

今後も各団体との植樹活動や、植樹イベント等を行い、様々な形で植栽活動を展開していき、「チェリータウン」を目指し観光誘客に努めていきたい。

また、すでに成長している桜について、間伐等の手入れを行う必要がでてきているので、植樹後の整備等も今後の課題としている。

福島県富岡町

まちの概要

福島県の太平洋側、浜通りの中央に位置し、人口約 16,000 人。東は絶壁が続く奇岩奇勝の海岸線、西は阿武隈山系。平成 16 年 4 月には常磐自動車道常磐富岡 IC が開通。首都圏から 200 km、JR 特急及び車で約 2 時間 30 分。また、東北では唯一、奈良三彩の破片が出土するなど遺跡も多く、福島第二原子力発電所より首都圏へ電気を供給している「電気のふるさと」でもある。

さくらの概要

富岡町の夜の森の桜は、明治 30 (1900) 年、半谷清寿氏が荒野だったこの地を開拓のため入植したとき、宅地周辺に 300 余本のソメイヨシノを植えたのが始まりとされている。

その後、清寿氏の次男・六郎氏や地域住民に受け継がれ、花の町へと生まれ変わった。樹齢 100 年を超える桜も含めて、約 2.5km 続く桜並木となっている。平成 2 年には、(財) 日本さくらの会による「別選さくら名所」に選定された。

これらを含め、現在、町内には約 2,400 本の桜が咲き乱れる。

さくらについての考え方、今後の施策、整備について

町観光協会などが主となり、桜をキーワードとした桜事業を展開している。桜祭りでは「さくら YOSAKOI」「各種スポーツ大会」などのイベント、通年事業として桜文募集事業、桜の枯葉を利用した「枯葉イベント」では、使用後の枯葉から出てきたカブトムシを町内の児童にプレゼント。また、今年度は、支障木としてやむを得ず剪定した桜枝で“桜染め”の試作品も完成。将来的には、植栽・管理育成事業を行いながら、特産品としての販売や、児童・観光客への体験学習の教材として提供し、今後も良い形で町民・観光客参加型の桜還元事業を展開していきたい。





第8回桜文大賞「桜にまつわる思い出の手紙」入賞者

桜文大賞	和泉 まさ江	(神奈川県川崎市)	「お母さんへ」
最優秀賞	登丸 しのぶ	(東京都世田谷区)	「ニューヨークの友人へ」
優秀賞	本田 昭毅	(佐賀県武雄市)	「天国の父へ」
	岡田 道子	(東京都港区)	「母の手に引かれ」
	佐野 正芳	(島根県出雲市)	「母のぼた餅」
	鈴木 玉喜	(福島県富岡町)	「わが家の嫁、朋子さんへ」
	安藤 知明	(大阪府豊中市)	「弟 晴文へ」
佳 作	栗田 富美子	(愛知県尾張旭市)	「女学生時代の級友へ」
	波多野 有子	(愛知県御津町)	「小学校六年生だった自分へ」
	柴 理恵	(東京都荒川区)	「絵のなかの桜餅」
	稲荷 正明	(北海道女満別町)	「亡き母へ」
	三上 洋一	(神奈川県相模原市)	「89歳の叔父へ」
	堀米 薫	(宮城県角田市)	「娘の萌美へ」
	印南 房吉	(神奈川県横浜市)	「『花筏』」
	今野 芳彦	(秋田県にかほ市)	「桜の祝報」
	国武 みきよ	(神奈川県横浜市)	「桜に願いを」
	梅木 加津枝	(大阪府池田市)	「母に」
	水木 亮	(山梨県甲府市)	「亡くなった母親に」
	手塚 よう子	(東京都北区)	「25年前の卒業生、つっぱり軍団に」
	間嶋 清	(大阪府阪南市)	「桜となる？敏子へ」
	岸野 洋介	(岡山県岡山市)	「親愛なるKさんへ」
	朝比奈 滋子	(福島県浪江町)	「友人」
	佐藤 洋子	(福島県いわき市)	「癌で天国に行った友人のゆかりさん」
	佐藤 真理子	(福島県桑折町)	「中学校の恩師」
	福島 千佳	(奈良県桜井市)	「父」
	吉田 富子	(福島県富岡町)	「七十六年来の友人 敬さんへ」
	江原 好一	(埼玉県東秩父村)	「雑巾」
	ブトロン・マベル	(ボリビア)	「中村伊都子」
	石原 敬三	(北海道北見市)	「『母の日』の桜」
	藤田 睦美	(福島県鮫川村)	「小学校の頃の先生」
	川瀬 理子	(福島県会津若松市)	「愛犬」
	半谷 有紀	(福島県富岡町)	「家族」
	林 諒祐	(福島県富岡町)	「亡くなったひいおばあちゃん」
	草野 京子	(東京都板橋区)	「父に」
	西村 由加	(東京都練馬区)	「母親へ」
	荒巻 啓子	(福岡県福岡市)	「家族に」
	竹内 瑞紀	(長野県高遠町)	「観光客」

第16回さくらサミット in 富岡
～桜でひとつになる瞬間^{とき}～未来への架け橋

発行日：平成18年1月26日

発行：福島県富岡町

〒979-1192

福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚 622-1

tel：0240-22-2111

fax：0240-22-0899